



奥州金ヶ崎行政事務組合

広報
-創刊号-

平成20年9月25日発行



施設見学第1号の胆沢愛宕小学校4年生です。

じょう水場のみなさんへ
おいそがしいところ、いろいろじ
よう水場のことを教えてくれてあり
がとうございます。
最初は、きたない水に薬をいれて、
だんだん黒いつぶが出てきてその後
きれいになつたので、すごいと思
ました。大きいあなたすごい深かつ
たのでおちそうでした。がんしゃカメ
ラがあつてびっくりしました。じよ
う水場の人数がぼくは、五十人くら
いいると思いましたが、八人でびつ
くりしました。外で第一号のきねん
写真をとつてうれしかつたです。い
るいろいろなことをくわしく教えてくれ
て本当にありがとうございます。仕
事がんばってください。

胆沢愛宕小四年 渡辺 凌平



奥州金ヶ崎行政事務組合

発足にあたつて

管理者 相原 正明

奥州市、金ヶ崎町が構成団体であつた胆江地区広域行政組合、胆江地区消防組合及び胆江広域水道企業団を、総合的かつ効率的に事務の共同処理を行う目的で、平成二十年四月一日に新たに、奥州金ヶ崎行政事務組合と

して発足しました。この三組合は、行政サービスとして、ごみ、し尿処理、消防事務、さらに、平成二十五年度完成予定の胆沢ダムからの胆江広域水道用水供給事業等、市や町を超えて住民の皆さんに提供していくため、設立した一部事務組合であります。

今年度の新組合の大きな事業としては、前沢区石田地内に建設予定の一般廃棄物最終処分場、金ヶ崎町西根北宿内地内に建設予定の水沢消防署金ヶ崎分署、倉建設工事、広域水道のインフラ整備を推進します。

今後は、奥州市民及び金ヶ崎町民の皆様の力強い御支援御協力を賜りまして、奥州金ヶ崎行政事務組合が、地域と一体となつた組合運営をめざしていく所存でございますのでよろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、この組合業務を広く御理解いただきたいと存でございますのでよろしくお願いいたします。

これから益々の御指導をお願いいたしまして、発足の御挨拶といったことをいたしました。

組合の主な仕事と予算

奥州金ヶ崎行政事務組合では、胆江地区衛生センター、消防事業、水道用水供給事業などを、奥州市と金ヶ崎町の協議により、組合が事務を進めることとされております。

消防費は一十一億一千七百万円で運営

新たに発足した、奥州金ヶ崎行政事務組合の予算を紹介します。平成二十年度全体の予算は、四十六億三千七百万円であり、そのうち、ごみ・屎尿、粗大ごみの処分料等として、一年間に二十五億一千万円が、地域住民のために使われております。

単位：千円

胆江広域水道用水供給事業会計について

胆江用水供給事業については、胆江広域水道用水供給事業会計について、行政事務組合の予算を紹介します。平成二十年度全体の予算は、四十六億三千七百万円であり、そのうち、ごみ・屎尿、粗大ごみの処分料等として、一年間に二十五億一千万円が、地域住民のために使われております。

歳入			歳出		
区分(款)	予算額	構成比	区分(款)	予算額	構成比
分担金及び負担金	3,876,075	83.59%	議会費	1,283	0.03%
使用料及び手数料	296,180	6.39%	総務費	113,373	2.44%
国庫支出金	47,798	1.03%	民生費	49,509	1.07%
県支出金	1	0.00%	衛生費	1,323,795	28.55%
財産収入	9,337	0.20%	消防費	2,127,218	45.87%
寄附金	1	0.00%	公債費	951,835	20.53%
繰入金	34,001	0.73%	予備費	70,138	1.51%
諸収入	294,758	6.36%			
組合債	79,000	1.70%			
歳入合計	4,637,151	100.00%	歳出合計	4,637,151	100.00%

奥州金ヶ崎行政事務組合のホームページで財政状況を公表していますので御覧下さい。
<http://users.catv-mic.ne.jp/~trksoumu/>

胆江地区広域交流センター



隣接する胆江地区衛生センターのごみ焼却施設の余熱を利用して館内の暖房やプール水、お風呂の加温を行っています。

屋内にはプール、大浴場、大広間、会議室、研修室があり、また、屋外にはゲートボール場、テニスコート、グラウンドゴルフ場が配置されています。

奥州市水沢区佐倉河字仙人127
TEL 24-6644

監査委員	議会議員	議長	副議長	副議員	議員	議員	議員
小野寺 高子	奥州市選出議員	藤田 千葉	高橋 照雄	関葉 明子	重則 雅子	正明	相原 由一
松子 男	金ヶ崎町選出議員	小野寺 重則	原慶	笠正 重則	藤野 雅市	（奥州市選出）	高橋 憲一
（議見委員）	（議見委員）	（議見委員）	（議見委員）	（議見委員）	（議見委員）	（議見委員）	（議見委員）
佐佐 菊地 衛	佐佐 菊地 衛	今井 章	及川 修	藤野 修	藤野 修	（金ヶ崎町選出）	（奥州市選出）
		及川 修	裕俊	裕俊	裕俊		
			孝夫	孝夫	孝夫		
			文行	文行	文行		

胆江地区休日診療所

(奥州市医師会館内)

奥州市水沢区多賀21番地の1 TEL 25-3935

●診療日…日曜、祝祭日、1月2日・3日

●診療時間…午前10時～午後4時まで

●受診の手続…当日、窓口に保険証を提示してください。

●診療科目…内科・外科



本年度から暫定供給開始



「たんこう浄水場」が稼動

昭和六十三年から整備を進めていた「たんこう浄水場」が本年四月から稼動しました。このことにより、奥州市と金ヶ崎町の皆さんに安全・安心・おいしい水をお届けできることになりました。

昭和六十三年二月に奥州市と金ヶ崎町（設立時は、水沢市、江刺市、金ヶ崎町、前沢町、胆沢町）は、胆江広域水道企業団（現奥州金ヶ崎行政事務組合水道課）を設立、未給水区域解消等を図るため、胆沢ダム（建設中）を水源に安定した水道水の供給を行う水道用水供給事業を計画しました。その後、平成二年七月に厚生省（現厚生労働省）から水道経営の許可を得て、水道管や浄水場の整備を進めてきました。

浄水場については、第一期工事として平成一七年度に着手、平成一九年度に供給能力一日当たり、七千五百五〇立方メートルの施設が完成しました。これにより、胆沢ダム完成までの間、胆沢川を暫定水源として平成二十年四月二十一日から水道水の一部供給をスタートいたしました。

◆施設見学について
は、あらかじめ電話で
○見学希望日、人数
○学校、団体名、代表者名
○住所、電話番号
○連絡先

衛生センター・浄水場
二四一五八二二

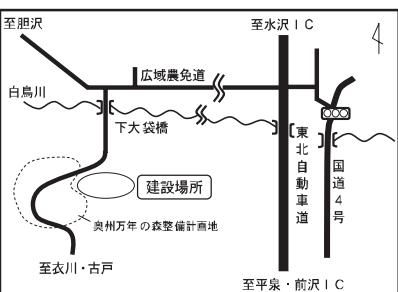
消防本部
二四一七二二一

奥州金ヶ崎行政事務組合
二四一五八二二

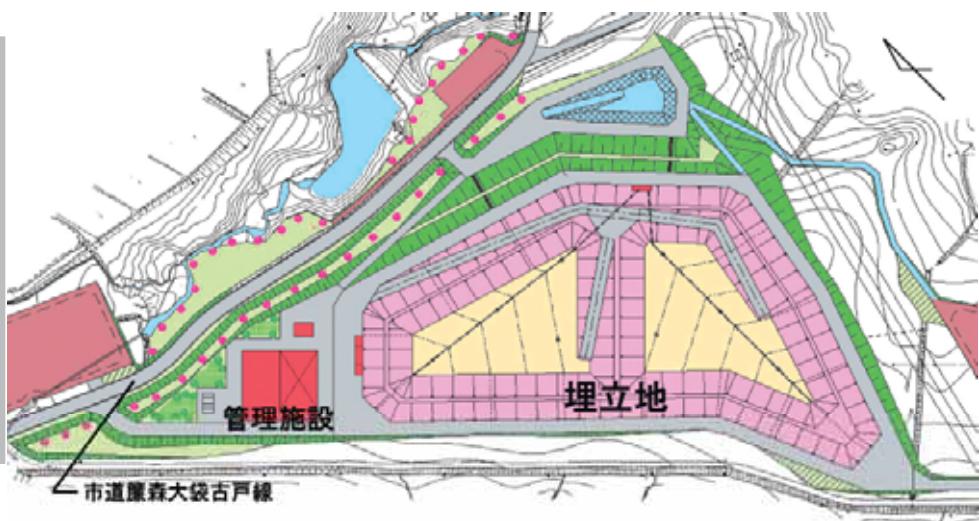
一般廃棄物最終処分場本年度工事着工 平成二十二年度の完成予定

一般廃棄物最終処分場は、前沢区字石田地内に用地を取得しております。本年度末から工事に入ります。

この工事に関連して、道路の整備等も並行して行う予定です。本格的な工事が始まるとき、大型トラックなどの通行量が多くなります。周辺の皆様には大変御迷惑をおかけしますが、御協力をお願いいたします。



水道用水供給事業とは
原水（自然のままの水）を浄水場でろ過や消毒をして飲めるようになった水を奥州市と金ヶ崎町に供給する（売る）、いわば、「水の卸売業」です





衝撃 震度6強

6月14日に奥州市に派遣された緊急消防援助隊

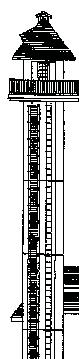
- ・青森県隊 33隊 121名
- ・秋田県隊 38隊 138名
- ・横浜市安全管理局 1隊 3名
- ・東京消防庁 9隊 34名
- ・宮古消防(県内) 5隊 15名
- ・ 援助隊総数 86隊 311名

集結場所（水沢公園）



本年四月に発足した奥州金ヶ崎行政事務組合の広報をお届けします。組合スタートに時間を要してしまって、今日に至ってしまいました。今後も出来るだけ、広報等で組合の業務等をお知らせし、市民、町民の皆さんに御理解をいただきながら、業務を行っていきたいと思います。組合に当たっては、すぐ実行できるものや、時間を要するものがありますが、今後ともよろしく御協力をお願いいたします。（Y）

☆緊急消防援助隊の登録状況☆
平成20年4月1日現在の緊急消防援助隊の登録部隊数は、789消防本部(全国807消防本部の約98%)から3,960隊となり、昨年度(3,751隊)より209隊増加し、人員規模としては、約46,000人の体制となっている。



○工事請負契約業者

- ・建築一式(電気、機械設備を除く)
- ・E C 南部コーポレーション株・菊地建設(株)共同企業体
- ・建築面積 775,233m²
- ・床面積 729,105m²
- ・契約金額 157,290,000円

完成予想図

緊急消防援助隊は、平成七年一月十七日に発生した阪神・淡路大震災の教訓から、国内で発生した地震等の大規模な災害における人命救助活動などを、より効果的に行うため平成七年六月に発足しました。
この緊急消防援助隊は、大災害が発生した際に、消防庁長官から各都道府県知事への要請により出動するもので、被災地の消防の応援のため速やかに赴き、人命救助活動などを行うことを任務としています。
当消防本部では消火部隊(ポンプ車・化学車)二隊、救急部隊(高規格救急車)一隊、救助部隊(救助工作車)一隊、後方支援部隊(支援車)一隊、特殊装備隊(はしご車)一隊を派遣可能部隊として登録しています。

○住宅火災警報器のおかげで！

8月に、奥州市内の市営住宅で、鍋をコンロにかけたまま家人が外出してしまい、隣人が住宅火災警報器が鳴っているのに気付き消防署に通報したもので、火災に至らなかった事例です。

住宅火災警報器を設置しましょう。



「水沢消防署金ヶ崎分署」移転新築工事が開始



現在の水沢消防署金ヶ崎分署は、昭和四十六年に建築したもので、老朽化が著しく、手狭な施設となつたことから、この分署は、大規模な屋外訓練場を設置ほか、大規模災害時の物資の補給など災害救助の拠点として効果を発揮できるのです。工事の完成は、来年二月末の予定です。



奥州金ヶ崎消防 119

緊急消防援助隊

